

全ていかすはたけ

～有機肥料の土で、虫・鳥・草木・子どもの思いの全てをいかしたトマト栽培～

信州大学教育学部附属松本小学校

3年生(35人)

関先生

活動のねらい

- ・畑全体の自然を生かしたトマト栽培(こあまちゃん)を通じて、「無駄なものや排除するものなんてない」という思いを持つことを目指す。
- ・子どもたちの「やりたい」を目指した栽培をし、そこで生まれた課題を克服するために教科を学ぶという視点を大切にしていくことで、「子どものやりたい!」と「教科のねらい」の両方を充実させる。
- ・苦労して作ったトマトをおいしく食べることで、目の前にある食材にはさまざまな方の努力と過程があることを知る。



活動の概要と流れ

4 月	・土づくり 他の生命体に害を及ぼすような畑にはしたくないと考え、EM菌を発酵させて作るぼかし肥料に目を付けた。有機栽培農家の方から作り方を教えてもらい、ぼかし肥料を作り、それを畑にまいて耕した。 ・畑の場所 「この畑はトマトを栽培するのに適した場所なのか?」という問いが生まれ、日照条件・温度などを夏まで想定しながら考えた。理科の「太陽とかげ」からも学び、トマトを育てる畑の場所がこの場所でよいことを確認した。	
5 月	・畝づくり 支柱を立てることを想定しつつ、子どもたちが考える自分なりの個性のある畝を作っていった。 ・トマトを植える 植える際は、苗と苗の間隔と畝の長さや広さの関係について、自分たちで計算をしながら考えた。	
6 月	・お手入れ 折れてしまったり、広がっていく枝を見て問題を感じた子どもたちは、支柱の必要性や脇芽をきちんと取ることの必要性に気づいた。子どもたちは、自分なりに工夫した支柱を持ち込んだり、助け合って脇芽を取りながら、トマトの成長を見守った。さらに、草丈を測り、その成長に喜びを感じていった。	
7 月	・お手入れ 農業高校の教師の手伝いをもらいながら、手入れをした。 ・夏休み中の手入れ計画 子どもが学校に来れる日を確認し、夏休み中にお手入れができるように調整した。	
8 月	・夏休みのお手入れ 台風などの強風で支柱が倒れ、枝が折れてしまうこともあったが、保護者の方や子どもが応急処置をして、支柱を立て直し夏休み明けには多くの実がなった。	
9 月	・調理パーティー 一番おいしく食べる方法について自分たちで考え、そのままを味わうサラダやアレンジを楽しむソースなど、調理を行い食べることを楽しんだ。 ・保護者の方への販売体験 校内で販売体験を行った。食卓に並ぶまでに必要な行程について学んだ。	

調理(実習)メニュー

・サラダ ・ソース ・浅漬け

実施内容詳細

- ・活動場所の活用における全校児童からの許可や、場所の紹介
- ・地域の有機栽培農家さんとのやり取り
- ・夏休み中の当番制での保護者の方からの協力
- ・販売体験における保護者の方の協力



取組みの工夫と実践の成果

昨年度の生活科「はたけで野菜を育てよう」の取り組みから、虫・鳥・草木など、その畑の環境の全てを愛す子どもたちの姿を大切にしたいと願った。

そこから、「全て生かすはたけ」をテーマに、殺虫成分や化学製品を使わず、EM菌発酵のぼかし肥料を使った有機栽培の土づくりから始めることを決め、土を育てることを大切にしながら、トマトを栽培した。

土づくりの際には、地元の有機栽培農家の方に土づくりの極意を聞いた。

長野県富士見町の「カゴメ野菜生活ファーム富士見」の取り組みを参考にすると、野鳥の止まり木などを設置する様子も見られた。

トマト栽培に当たっては、育てる畑の場所は本当に適しているのか、自分でつくったこだわりの畝には何本トマトを植えることができるのかなど、教師がやってあげるのではなく、子ども自身が課題に直面しながら、教科で学んだ力を使って課題を解決していった。

子ども自身が取り組む活動ならではの多くの課題があったが、専門家である農業高校の先生に知恵を借りながら自分たちで克服していく姿が見られた。

調理の際には、保護者の方に子どもたちがアドバイスをもらいながら「一番おいしく食べる」ための調理方法や料理を自分たちで考え、実際に作った。

調理が終わった後には、保護者の方などに向けて販売体験を行い、食卓に並ぶまでに育ててからどのような過程があるのかを身をもって体験した。

以上の取り組みから、「目の前にある食事はあたりまえではなく、たくさんの人の工夫や努力があるとわかった」、「大切だから困ったことがないように、お世話したいとがんばった」、「虫も鳥も大切にしたい、と言った友だちの意見も大切にして収穫できてよかった」などの感想をもつ子どもたちの姿があった。

感じたこと

大人は「良いものを効率よく生産して、おいしくいただきたい」と願うが、子どもたちは「その畑の環境や、収穫する物にとことん向き合い、自分の友のように思って、野菜を育てていく」と気付き驚きました。子どもの願いに沿って、課題を先回りして解決するのではなく、子どもと共に考えて解決することが大きな学びになったと思いました。カゴメさんも含め、地域の方、保護者の方にたくさん支えていただいて、この学びができたこと実感しました。

受賞理由

本活動を環境保全と結び付け、有機栽培で凛々子を育てたことに驚かされました。栽培過程で子どもたちが直面した問題に自ら答えを出せるように先生方が見守る姿勢には、子どもの学び力を引き出そうとする同校の教育方針が垣間見えます。また、調理活動においても「一番おいしく食べる調理方法」を子どもたち自身が考え、レシピを検討し実践しています。体験を学びに変えたすばらしい取り組みです。